ひとしの森新聞　2024年3月1日

沖縄には三つのお正月がある？

渡辺仁史

think the future from hitoshi watanabe lab.

●沖縄のお正月、3つの顔

● 沖縄には、一般的な新暦のお正月に加えて、旧暦のお正月と「**十六日祭**」と呼ばれる独特な行事があることをご存知でしょうか。

● 新暦のお正月は、日本全国でおなじみの1月1日を迎えるお祝いですが、旧暦のお正月も重要なイベントです。一般的に2月ごろに訪れ、古くからの伝統を守りながら祝われます。そのため、沖縄では年が明けてからもお正月ムードが続くのです。

● そして、さらにユニークなのが「**十六日祭**」です。これは旧暦の正月十五日を過ぎた十六日に行われ、亡くなった先祖の霊が戻るとされる「後世（グソー・あの世）のお正月」とも言われます。この日は家族でお供え物を持ち寄り、先祖の霊を迎える大切な日です。

● 特に八重山地方では現在でもその習慣はしっかり残っていて、そのため前日あるいは一番近い日曜日など事前に墓掃除を済ませておき、当日は朝から主婦は台所で慌ただしく支度をします。

● 学校も半ドンになるので、子供が帰宅するのを待ってお墓に向かい、正午ごろに墓前に家族・親戚など一堂に介して、ご馳走やお酒、花などを供えて手を合わせた後、先祖と一緒になって、みんなで賑やかに食事をし、飲めや歌えの宴が始まります。

● この日ばかりは、子どもたちはお墓の上に乗ったりそこで鬼ごっこをしても怒られず、子どもたちにとっても楽しみなイベントの日になります。それもあって、沖縄の子どもたちにとってお墓は怖いところではなく、遊び場であり、ご馳走が食べられるピクニックの場所なのです。

● お墓の前には十畳ほどの広さの空間があって、ここにブルーシートを敷いて是認が集まるのですが、最近ではコンクリート製の立派な屋根がかけられているところを多く見かけます。

● このように、沖縄のお正月は、新暦、旧暦、そして**十六日祭**と3つの顔を持っていて、この独自の文化が、沖縄の人々にとって大切な季節を彩っています。もし興味があれば、ぜひこの機会に沖縄のお正月文化を探索してみることをお勧めします。

News Paper
第16号
2024.03.01

重箱の中身は・・・魚と豆の天ぷら、昆布巻、豚三枚肉、ゴボウ、コンニャク、大根の煮付け、カマボコ、揚げ豆腐などのおかずなど
左の黄色い紙は、打紙（ウチカビ）〈または紙銭（カビジン）〉といって、あの世でお金に困らないように焼いて持たせます

●それは観察から始まった……人間行動と建築情報学

● 早稲田大学創造理工学部建築学科渡辺仁史研究室同窓会「ひとしの森」 / 東京都新宿区大久保2-17-34